

プレスリリース

ホンマタカシ ニュー・ドキュメンタリー

Takashi Homma : New Documentary

2012年7月15(日) - 9月23日(日)

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

展覧会に関するお問い合わせ及び資料のご請求先：
丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
公益財団法人ミモカ美術振興財団
担当＝古野華奈子

〒763-0022 香川県丸亀市浜町 80-1
tel:0877-24-7755
fax:0877-24-7766
<http://www.mimoca.org/ja/press/>

【展覧会概要】

展覧会名： ホンマタカシ ニュー・ドキュメンタリー
Takashi Homma : New Documentary
会 場： 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 展示室 C
会 期： 2012年7月15日(日)－9月23日(日) (71日間) 会期中無休
開館時間： 10時－18時 (最終入館17時30分)
主 催： 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、公益財団法人ミモカ美術振興財団、朝日新聞社
協 賛： 株式会社 大伸社
協 力： エプソン販売株式会社、ギャラリー360°
観覧料金： 一般950円 [760円] 大学生650円 [520円]
*同時開催企画展「物物」及び常設展観覧料を含む
* []内は前売り及び20名以上の団体料金
高校生以下または18歳未満・丸亀市内在住の65歳以上・各種障害者手帳お持ちの方は無料

前売券販売場所：

[丸亀] あーとらんどギャラリー (0877-24-0927) オークラホテル丸亀 (23-2222) おみやげSHOP ミュー (22-2400) きままや (22-9361)

※2012年8月25日(土)、26日(日)はゲートプラザにて「まるがめ婆娑羅まつり」開催のため観覧無料 (ただし展示室内に音が響く場合があります)

【展覧会趣旨】

90年代初頭から写真表現の第一線で活躍してきたホンマタカシ。被写体との距離を保ち、自分の感情を上乗せせずに目の前の事物をそのままに写したホンマの写真は、様々なジャンルで新しい写真として受け入れられ、後進にも影響を与え続けています。本展は、発表する媒体やジャンルの枠にとらわれずニュートラルに写真と取り組んできたホンマが、国内の美術館では初めて行う個展で、2011年に金沢と東京を巡回、その第3弾として開催するものです。従来のプリントはもちろんのこと、写真を元にしたシルクスクリーンや本、絵画等、複数のメディアを織り込み、さらに前回とは異なるインスタレーションによって、ホンマの写真が表現と記録の間を行き来します。見るものに「写真とは何か」を問いかけ、「見る」ことの本質に迫ります。

【主な出品作品（シリーズ）】

《丸亀の子供》 2012年

丸亀の子供を撮った本展のための新作。目の前に立てられた見たこともない大きなカメラを見つめ、緊張、戸惑い、はにかみ、うれしさ、心細さ等々、いくつもの感情が小さな顔を横切る。美術館外のサテライト会場にて展示予定。

《Trails》 2009－2011年

白い雪の上に、突き出した枯れ枝を縫うように鮮やかな赤が点々と、あるいは何かを引き摺ったように赤い軌跡が残されている。人や生き物の姿はどこにもなく、ただ、雪を踏み抜いたいくつもの足跡が、その場の時間を遡らせる。これらの写真とともに、赤い絵具を太い筆で走らせた抽象画が数点展示される。

《Tokyo and My Daughter》 1999－2012年

一人の少女の成長を追ったシリーズ。東京の風景がところどころに差し込まれる。家族と見られる女性や、ホンマ自身も登場し、タイトルによれば、ホンマの家族写真だと推測されるが……。提示された写真だけでは、その真偽にたどりつけない。

《Widows》 2009年

イタリアのジェノバとその近郊の町ラパッコで撮影したシリーズ。タイトルどおり未亡人ばかり11人のポートレートに、彼女たちの住む家や周辺の景色、さらに若い頃の思い出の写真をホンマが再撮影したものが加えられている。

《M》 2010－2011年

ホンマが世界各国で撮ったマクドナルドの写真をシルクスクリーンでプリントしたシリーズ。同じ画像を3色、4色と色数を変えて刷り、トリミングする部分を変えることで、一つのマクドナルドがいくつにも増殖する。前2会場では床置きされたが、今展では壁に掛けられる。

《Together: Wildlife Corridors in Los Angeles》 2006－2008年

映像作家のマイク・ミルズとともに行った、ロサンゼルス郊外の野生動物の生態調査プロジェクト「Wildlife Corridors in Los Angeles」。野生のマウンテンライオンにつけられたGPSデータの記録をたどり、ホンマがその場所で撮影をした。ホンマの写真とミルズのテキストで構成される。

《re-construction》 2011年

白表紙の本が積み上げられ、観覧者はそれぞれ手にとって中を見ることができる。中身はモノクロ印刷で、雑誌の表紙や中の記事、写真集の1ページ、校正刷りなどを撮った写真が掲載されている。ホンマの過去の仕事が自身によって再撮影され、編集されて、新たな形で提示される。

《その森の子供》 2011年

キノコを撮った新シリーズ。無彩色の背景に寝かせたキノコを、凶鑑のように真正面から撮っている。根元には土やコケ、落ち葉、宿主となる太い枯れ枝等が付着したままで、目には見えない菌糸の存在を物語る。あるいは、タイトルによれば、森に降り注ぐ放射能を真っ先に吸収すると言われるキノコの中の見えない何かも示唆されているのか。本シリーズは丸亀展のみ出品。

※出品作品例の広報用画像をご希望の際は、データにてお送りいたしますので、当館ウェブ上のプレス用ページ (<http://www.mimoca.org/ja/press/>) よりお申し込みください。なお、著作権の都合上、画像をご掲載の際は必ずクレジット等のご記載もあわせてお願い申し上げます。

[トピックス]

1. 国内の美術館での初個展（巡回展として）

80年代後半に広告制作会社で写真の仕事を開始したホンマは、90年代はじめには頭角をあらわし先鋭的なファッション誌などで活躍するとともに、写真集や展覧会で次々と作品を発表します。1999年には木村伊兵衛写真賞を受賞、近年は写真論の執筆や写真のワークショップを開催するなどその活動は幅広く、海外でも高く評価されています。しかし、これだけのキャリアにもかかわらず、これまで、国内の美術館での個展は行ってきませんでした。

「写真」に対するホンマの俯瞰的な視点は、彼の撮る写真にそのまま反映され、表現に大きく関わっています。ジャンルの枠やヒエラルキーから自由なホンマの作家性を、「美術館」というある種権威的な境界のなかでどう発表するのか。深慮の結果の本展は、単に自身の作品を見せる行為に留まらず、ホンマの写真家としての在り方をも示す内容となっています。それは同時に、写真表現の可能性をも示唆しているのです。（*本展は2011年1月より金沢21世紀美術館、東京オペラシティ アートギャラリーを巡回し、当館が3館目で最後の開催館となります。）

2. 「ニュー・ドキュメンタリー」

写真は「真を写す」と書きますが、本当に真実が写っているのでしょうか。レンズを通して機械的に結ばれた像は、たしかに記録的な側面を持ちますが、果たしてそれは「ドキュメンタリー（虚構を用いず記録に基づいて作ったもの。記録小説・記録映画の類。実録。／広辞苑第三版）」なのでしょうか。

何を写すのか、どこで切り取り、どこでカメラを構え、いつシャッターを押すのか。撮影の際の動作には、一つ一つに撮る人の意思が働きます。より意図的に、被写体に手を加えたり、言葉を添えたりして、情報を操作するのも簡単です。今ではデジタルカメラの普及によって画像そのものを手軽に加工できるようにもなりました。それでもなお私たちは、無意識のうちに写真を「ドキュメンタリー」として鵜呑みにしてはいないでしょうか。

本展出品の作品シリーズには、それぞれに写真のドキュメンタリー性を揺るがせる仕掛けが組み込まれています。虚構と現実の境界があちこちに出現し、あるいは溶解して、見る人の思考を写真の本質へと誘います。

3. 時系列での展示

巡回展の最後となる当館での展示は、これまでとは大きく異なります。金沢や東京ではシリーズごとに展示されましたが、丸亀では、時系列で展示されます。スタートは1999年撮影の《Tokyo and My Daughter》、最後は2012年撮影の新作です。時系列によってシリーズは一旦解体され、観覧者は一点ごとに写真と向き合い、一点一点を見ることとなります。時間という記録性が付加されることで、逆にコンセプトは把握しにくくなり、見る人は一枚の写真に戻って、その記録性と表現の混在をより純粋に、そして何度も体験することになるでしょう。

加えて、13年分のホンマの写真が順を追って展覧されるのはこれがはじめてとなります。もちろん13年間に撮った全ての写真というわけではありませんが、ホンマの活動を一望できるめったに無い機会となるでしょう。

【関連プログラム】

1. オープニング・イベント「対談：ホンマタカシ×市川実日子」

被写体としてホンマの写真にたびたび登場する市川実日子。撮る側と撮られる側が制作の現場を語ります。

日時：2012年7月15日（日）14:00-

場所：2階ミュージアムホール

聴講料：無料

定員：170名

要予約（申し込み方法は後日、当館のウェブサイトにてご案内いたします）

2. サテライトマルガメ

丸亀の町中にサテライト会場が出現、本展の展示は美術館の外にも広がります。

日時：2012年7月14日（土）-9月23日（日） ※会場ごとに営業時間や休業日が異なります。

会場：うどん 浜っこ、うどん つづみ、ヘア&メイク バービカン、Café la taupe、カフェレスト MIMOCA 他、2ヶ所を予定

出品予定作品（シリーズ）：《丸亀の子供》（新作）、《中平ポートレート》（新作）、《Why Photography?》（新作、屋外展示）、《NEW WAVES》等

3. クロージング・イベント「写真家と音楽家。写真と音楽。ホンマタカシ 阿部海太郎 吉田千佳子」

日時：2012年9月22日（土）18:30-

場所：2階ミュージアムホール

1～3の詳細は未定です。決まり次第、当館のウェブサイトにてご案内いたします。

4. キュレーターズ・トーク

本展担当キュレーター（古野華奈子・中田耕市）が展示室にて展覧会の見どころをお話します。

日時：会期中の日曜日（7月15日を除く） 14:00-

参加料：無料（ただし展覧会チケットが必要です）

申込：不要（美術館1階受付前にお集まりください）

【作家略歴】

ホンマタカシ / Takashi Homma

- 1962年 東京生まれ。
- 1982年 日本大学芸術学部写真学科入学。
- 1985年 同大学中退後、ライトパブリシティに入社。
- 1991年 同社退社後、ロンドンに移住。滞在中の2年間、ストリートファッション誌『i-D』のためにはほぼ毎号撮影。
- 1992年 12月に帰国。東京を本拠地に活動開始。
- 1995年 最初の写真集となる『Babyland』（リトル・モア）を刊行、同書収録作品による初の個展開催。
- 1999年 写真集『東京郊外』で、第24回木村伊兵衛写真賞を受賞。
- 2003年 「中平卓馬 原点復帰—横浜」展（横浜美術館）に際し、写真家の中平卓馬を被写体にした16ミリ映画「きわめてよいふうけい」を発表。
- 2008年 『Takashi Homma: Tokyo』（aperture、NY）を刊行、1993年から2007年までに撮影された東京を対象にした作品で構成。
- 2009年 『たのしい写真 よい子のための写真教室』（平凡社）を上梓、独自の写真論を展開。
- 2010年 東京造形大学客員教授に就任。大学院プロジェクト科目で「今の時代のニュードキュメンタリー」を担当。
- 2011年 金沢21世紀美術館、東京オペラシティ アートギャラリーにて国内の美術館での初個展「ホンマタカシ ニュー・ドキュメンタリー」を開催。

現在、東京在住。

【展覧会等のお知らせ】

■同時開催展

企画展 物物（展示室A）

常設展 猪熊弦一郎展（展示室B）

会期：2012年7月15日（日）—9月23日（日） 会期中無休

■次回開催企画展

石内都 絹の夢

会期：2012年10月7日（日）—2013年1月6日（日） 休館：12月25—31日

報道各位

2012年6月

謹啓 平素は当館の事業につきまして格別のご高配、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて丸亀市猪熊弦一郎現代美術館では、2012年7月15日(日)より特別展「**ホンマタカシ ニュー・ドキュメンタリー**」を開催いたします。昨年、金沢と東京で開催され話題となった本展覧会の最後の巡回先となる今展では、ホンマは展示方法を大きく変え、新たなアプローチで写真のドキュメンタリー性に迫ります。丸亀のみの出品作も多数加わり、さらに展示は美術館をはみ出してうどん店をはじめとする地域性たっぷりのサテライト会場へも展開します。

つきましては、オープン前日にあたる**7月14日(土)13時より、ホンマタカシ氏ご臨席のもとプレス合同インタビューを行います。参加ご希望の方は下記申込書にご記入の上、7月6日(金)まで**にFAXにてお知らせください。とりいそぎ書面にてご案内申し上げます。

謹白

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館/公益財団法人ミモカ美術振興財団
展覧会担当:古野華奈子・中田耕市
〒763-0022 香川県丸亀市浜町80-1
Tel:0877-24-7755 Fax:0877-24-7766 e-mail:press@mimoca.org

**「ホンマタカシ ニュー・ドキュメンタリー」
プレス合同インタビュー申込書**

日時:2012年7月14日(土) 13:00~13:50 プレス合同インタビュー

場所:丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 3F 会議室(予定)

受付:12:00~ 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 1F 受付 *本用紙をご提示下さい。

◇貴社名 _____

◇媒体名 _____

◇ご担当者名 _____

◇ご連絡先(Tel/Fax) _____

(E-MAIL) _____

**ご返信先:丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 担当 古野宛
FAX 0877-24-7766**